

大学院入試問題のミスについて

▽神戸大学大学院工学研究科

大学院工学研究科博士課程前期課程の入試で、平成21年度から平成24年度の間、3つの専攻に6件の出題ミスがありました。

1. ミスのあった試験

①平成21年度神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程市民工学専攻一般選抜選考試験

- ・試験実施日
平成20年 8月27日 筆答試験, 8月28日 口頭試問
- ・合格発表日
平成20年 9月 4日
- ・募集人員
43名
- ・受験者数等
出願者数53名
受験者数45名 (うち, 「構造力学」 選択者数23名)
合格者数43名 (うち, 「構造力学」 選択者数21名)
- ・選抜方法
筆答試験, 口頭試問を総合して選抜する。
- ・ミスの内容
専門科目 (二) の「構造力学」の問題3において, 設定に不適切な点があった。
- ・ミスへの対応
後述「2. ミスの発見状況と対応」参照

②平成21年度神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程建築学専攻一般選抜選考試験及び外国人留学生特別選抜選考試験

- ・試験実施日
平成20年 8月27日 筆答試験, 8月28日 口頭試問
- ・合格発表日
平成20年 9月 4日
- ・募集人員
一般選抜 65名, 外国人留学生特別選抜 若干名
- ・受験者数等

	一般選抜	外国人留学生特別選抜
出願者	73名	4名
受験者	66名	4名
合格者	63名	3名
- ・選抜方法
筆答試験, 口頭試問を総合して選抜する。
- ・ミスの内容
専門科目 (二) 「建築構造・建築材料」の問題2 (2) において, 数式に間違いがあったこ

とにより、問題文が示す条件設定と正解の内容に矛盾が生じる。

- ・ミスへの対応

当該問題について全員正解とした。

(一般選抜：配点100点中 4点，外国人留学生特別選抜：配点400点中 8点)

なお、この対応による合否判定には影響がないことを確認した。

③平成22年度神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程建築学専攻第二期一般選抜選考試験及び第二期外国人留学生特別選抜選考試験

- ・試験実施日

平成22年 1月28日 筆答試験， 1月29日 口頭試問

- ・合格発表日

平成22年 2月16日

- ・募集人員

一般選抜 若干名，外国人留学生特別選抜 若干名

- ・受験者数等

	一般選抜	外国人留学生特別選抜
出願者	8名	8名
受験者	7名	8名
合格者	0名	5名

- ・選抜方法

筆答試験，口頭試問を総合して選抜する。

- ・ミスの内容

専門科目（二）「建築構造・建築材料」の問題2（3）において、数式に間違いがあったことにより、問題文が示す条件設定と正解の内容に矛盾が生じる。

- ・ミスへの対応

当該問題について全員正解とした。

(一般選抜：配点200点中 8点，外国人留学生特別選抜：配点200点中 8点)

なお、この対応による合否判定には影響がない。

④平成22年度神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程市民工学専攻一般選抜選考試験

- ・試験実施日

平成21年 8月19日 筆答試験， 8月20日 口頭試問

- ・合格発表日

平成21年 9月 2日

- ・募集人員

43名

- ・受験者数等

出願者数57名

受験者数54名（うち、「水理学」選択者数28名）

合格者数50名（うち、「水理学」選択者数26名）

- ・選抜方法

筆答試験，口頭試問を総合して選抜する。

- ・ミスの内容

専門科目（二）の「水理学」の問題1（2）において、問題文の誤植により、問題文が示す条件設定と正解の内容に矛盾が生じる。

- ・ミスへの対応

当該問題について全員正解とした。(配点150点中15点)

なお、水理学以外を選択した学生については、不利とはならないように措置をし、この対応による合否判定には影響がない。

⑤平成24年度神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程市民工学専攻一般選抜選考試験

・試験実施日

平成23年 8月22日 筆答試験, 8月23日 口頭試問

・合格発表日

平成23年 9月 7日

・募集人員

43名

・受験者数等

出願者数63名

受験者数57名 (うち、「水理学」選択者数28名)

合格者数41名 (うち、「水理学」選択者数21名)

・選抜方法

筆答試験, 口頭試問を総合して選抜する。

・ミスの内容

専門科目(二)の「水理学」の問題3(2)において、問題文の誤植があった。

・ミスへの対応

当該問題について全員正解とした。(配点150点中15点)

なお、水理学以外を選択した学生については、不利とはならないように措置をし、この対応による合否判定には影響がない。

⑥平成21年度神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程機械工学専攻一般選抜選考試験

・試験実施日

平成20年 8月27日 筆答試験, 8月28日 筆答試験, 口頭試問

・合格発表日

平成20年 9月 4日

・募集人員

78名

・受験者数等

出願者数75名

受験者数68名

合格者数58名

・選抜方法

筆答試験, 口頭試問を総合して選抜する。

・ミスの内容

専門科目(二)の「機械力学・制御」の問題2-2において、パラメータが重複するという設定間違いがあったことにより、問題文が示す条件設定と正解の内容に矛盾が生じる。

・ミスの発見状況と対応

当該問題について全員正解とした。(配点100点中10点)

なお、この対応による合否判定には影響がない。

2. ミスの発見状況と対応

平成23年8月、大学院受験を控えた市民工学科4年生の学生が過去の試験問題について勉強するうち、平成21年度の「構造力学」(前述①参照)に疑問点を見つけた。8月5日、教員に質問したことから、問題にミスのあることがわかった。

対応については、次のとおりとした。

当該問題について全員正解とした。(配点150中50点)

また、構造力学以外を選択した学生については、不利とはならないように措置(構造力学を選択した受験者に対して加点した平均点を、構造力学を選択していない受験者全員に加点)した。

上記ふたつの対応をとっても、受験者の合否判定には影響がなかった。

工学研究科はこのミスを重視し、市民工学専攻を含む全6専攻について、法定文書保存期間(5年)の平成20年度から24年度に亘り全試験問題を調べた。その結果、上記6件の出題ミスを確認した。

3. ミスの原因

工学研究科の取り決めでは、問題作成後は複数の教員が点検・確認することになっている。しかし、上記いずれの場合も、ミスを見逃していた。

4. 受験者への周知方法

出題ミスが発生した事実等について、本学工学研究科ホームページ上で発表する。

5. 今後の対応策

工学研究科の大学院入試問題は、各専攻ごとの出題担当教員が作成し、各入試委員会で点検することになっている。この際のチェックが不十分でミスに気付かなかった。

今後は、問題提出後のチェック時間を十分に確保するなどし、より一層注意深くチェックすることにより改善を図り、出題ミスの発生を防ぐ。

以上